



島教協

《 すべては「子供たちのために」 》 情 報

http://
www.kyougikai.org

E-mail
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 安達利幸 編集人 石原康博 No.598

来年度から主幹教諭を配置! 15名程度

加配による負担の軽減を!

県教委では九月十七日(水)の教育委員会で、来年度より主幹教諭を設置することが議決された。学校教育法の一部改正を受けて、副校長、主幹教諭、指導教諭がおけるようになり、全国で十三都府県が主幹教諭・指導教諭を配置している。

島根県の考える主幹教諭は次の通りである。

(詳細は別紙)

【主幹教諭の設置について】

① 職務

・校長及び教頭を補佐するとともに、校長から任された校務について、校長等が判断・処理できるよう、取りまとめ整理すること。

・必要に応じて、**教務等の主任を兼務すること。**

・児童生徒等の教育を担当すること。

② 設置理由

・主幹教諭は管理職と教諭等の間に立ち、学校経営方針を周知徹底するとともに、教諭等の意見等を取りまとめ管理職に伝えることにより、学校のマネジメント機能の強化を図ることができる。

・主幹教諭は教諭等のリーダーとして、自らの経験を生かして指導・助言を行うことにより、人材の育成を図ることができ。

・**加配により主幹教諭の授業時数を軽減することが効果的**だが、そのための定数が平成二十年度は千人新たに措置され、二十一年度についても予算を要求がなされている。

③ 選考方法

・管理系である主幹教諭は、**教頭昇任候補者名簿登載者の中から選考する。**

④ 配置と人事異動

・小学校十二学級以上、中学校九学級以上の学校の中で、特に必要とする学校へ配置する。

・原則として、**主幹教諭としての異動は行わない。**

県内で配置基準に該当する学校は、**小学校が五十校、中学校が三十二校である。**

既に配置されている他県の課題から本県での運用について考える。

・負担増にならないこと。

・職務、職責が現場の教職員にわかるように提示され、混乱を招かないようにすること。

・主幹教諭一名につき、一名の加配があること。

・単なる管理職への通過点とならないこと。

今後、現場が混乱しないように説明・研修が行われ、学校現場の負担増にならない方を講じていくことが大切である。また、県教委からは、主幹教諭の導入によって、**県単で行っているサポート制度が縮小することはない**との説明があった。

△専従の気になる本▽

ドラマにもなる「夢をかなえるゾウ」を昨年紹介したときは、爆発的に売れる前でした。ドラマになるなんて…。今回は、昨年講演いただいた原田隆史氏の著書と十月に講演いただく野口芳宏氏の著書です。

「カリスマ教師の心づくり塾」

原田隆史著 日本経済新聞出版社

「授業の作法」

野口芳宏著 学陽書房

教育専門職に相應しい給与体系を！

島教協は、県の人事委員会勧告を前に、九月十八日（木）県人事委員会に対して申し入れを行った。今年度は、人事院から初めて勤務時間に関する勧告が出された。八月十一日（月）の人事院勧告の骨子は次の通りである。

- 民間給与との較差（0.04%）が極めて小さいことから、月例給の水準を維持する。
- 期末・勤勉手当（ボーナス）も民間の支給割合と概ね均衡し、改定しない。
- 給与構造改革の着実な実施。
- 勤務時間を一日7時間45分、一週38時間45分に改定。



島教協結成について説明をする安達会長

人事委員会からは、高橋研事務局長、高橋陽治企画課長、江角薫給与GLが出席、島教協からは、安達会長・石原事務局長が参加した。申し入れ内容は、勤務時間の改定について、また、メリハリのある給与体系の導入についてである。特に、新しい職の導入に伴う新給料表や教員特殊業務手当などについて島根の厳しい現状を踏まえたつ、よりよいものにしていただきたいと申し入れを行った。

高橋事務局長からは、勤務時間については、「国、各県の動向を見ながら情報収集中である。本県の民間は国の平均にはいっていない状況である。」と話があった。教員特殊業務手当については、「倍増という話が出ているが、頑張った人には手厚い処遇をしてもよいと思う。」また、主幹教諭の処遇については、「今のところ特二級を考えている。教務主任を兼務した場合の主任手当も含めて今後検討していく。」とのことであった。

幼稚園講師研修会



ピアノ実技講習の様子

九月六日（土）、幼稚園部会は、教育文化研究所と連携して、幼稚園講師研修会を出雲市内のコミュニケーションセンターを会場にして開催した。昨年は、出雲市の幼稚園職員採用がなかったため、研修会が開催できなかった。

今年度は、若干名の採用があることから幼稚園の講師の方を対象に、ピアノ実技、面接、小論文について研修を行った。講師には、出雲二中の阿川教諭と今市幼の石飛教諭をお迎えし、阿川教諭にはピアノ実技をじっくりとご指導いただいた。石飛教諭からは採用試験の勉強について経験を踏まえた講話があった。

今回、実技指導、面接、小論文の指導には中学校教諭と幼稚園教諭があたった。幼小中の連携がいられているが、組織の中のこうした連携はこれからも行っていききたいと考える。また、こうした連携ができるのは組織があればこそである。



面接練習の様子

学校紹介

雲南市立吉田小学校 民谷分校

本校は、美しい山々に囲まれ、田園の広がる日本の原風景の中にたたずむ、児童数10名の学校です。子どもたちは、地域の方の温かいまなざしの中で、元気に生活し、学校行事や活動に地域の方を招いて交流しています。

クラブ活動では、神楽を教わり、秋祭りで披露したり、5年目の取り組みになるNHK合唱コンクールへの参加のため、地域でプレ発表会を開いたりします。いつも大きな声援をいただき、励まされています。